

集団づくり

(1) 集団づくりとは

集団づくりは、前項で述べた「自尊感情の醸成」と表裏一体のものです。

一人一人違った個性をもち、様々な生活を背負い、別々の場所で暮らしてきた子どもたちをていねいにつなぐこと、互いに支え合う人間関係をつくり出すことが集団づくりです。そのことが、子どもたちに学習意欲や規範意識を育み、なかまを大切にしながら自分の未来に向かって進路を切り拓いていくというパワーの源になります。

集団づくりが成熟すると、「友だちもがんばってるから、自分も勉強をがんばろう」と、なかまの「がんばり」が学習への支えになったり、法や規則を遵守するという意識だけではなく「家族や友だちに迷惑がかかるからやめておこう」というふうに、周りの人への深い「思い」によって社会的な規範を守ろうとするようになると思われます。このような雰囲気学級にあふれ、さらに学年や学校全体にまで広がり、教職員全員ですべての子どもを見守るという姿が理想であると考えます。

(2) 集団づくりの効果

① 学力保障

子どもたちの学力の問題について、大阪大学の志水宏吉氏は、昭和39(1964)年度の全国学力調査、および平成19(2007)年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、「つながり」の深さや広さの度合いが学力に大きくかかわるとした上で、以下のように述べています。

「つながり格差」のしわ寄せを受けやすい社会層に属する子どもたちの基礎学力を保障するために、どのような手を打つことが可能だろうか。答えはいたってシンプルである。日本社会のいたるところで衰微しつつある「つながり」を、地域・家庭・学校の中で、あるいはその連携の中で、再構築していけばよいのである。

近隣社会における顔の見える関係をつくり上げていくこと、家族のだんらんを取り戻すこと、教師と子供たちの信頼関係をよりよいものにしていくこと。豊かな人間関係のネットワークの中でこそ、子供たちは安心してそれぞれの学びを発展させていくことができるのである。

(平成21(2009)年「日本経済新聞」11月30日掲載)

集団づくりを進めることは、単にそれだけにとどまらず、子どもたちの学習意欲を向上させたり規範意識を高めたりすることなどにもつながっています。

学校や学級、地域や家庭において一人一人を大切にしながら「つながり」を構築していけば、子どもたちは安心して自主性や社会性を発揮し、学力も伸ばすことができるのです。

[第三次とりまとめ]は、以下のように、「効果のある学校」について述べています。このことから、一人一人の子どもの基礎学力を保障する上で、集団づくりにかかわる取組を大切にしなければならないといえます。

効果のある学校（effective school）

今日、「効果のある学校」に関する研究が国内外で進められている。これらの研究では「教育的に不利な関係の下にある児童生徒の学力水準を押し上げている学校」において、学力の向上と人権感覚の育成とが併せて追求されている点に注目しており、人権感覚の育成は、児童生徒の自主性や社会性などの人格的な発達を促進するばかりでなく、学校の役割の大事な部分を占める学力形成においても成果を上げているとの指摘を行っている。

一人一人の個性やニーズに応じた基礎学力を獲得するためには、学校・学級の中で、現実に一人一人の存在や思いが大切にされるといった状況が成立していなければならないからである。

〔第三次とりまとめ〕より

② 「共同体」づくり

集団づくりには、大きな意義として「共同体」づくりという側面があります。

かつての「集落」では、そのコミュニティ全体で地域すべての子どもたちを育てるという意識が存在しました。何か悪いことをすれば、わが子であろうとなかろうと大人たちは注意をし、叱ったものです。反対に、子どもたちが良いことをすればみんなで褒め、子どもたちの成長を喜びました。このように、相互扶助の精神にあふれ、「お互い様」「もちつもたれつ」という寛容で温かい人間関係が、過去には多く存在していました。

しかし、私たちが再生を目指す地域の共同体は、以前の共同体と同じものではありません。「地縁」「血縁」を大きな軸として成り立ってきたこれまでの共同体は、前述のように多くの長所をもちながらもその一方で、差別や人権侵害の芽を温存してきました。男女差別、部落差別、障害者差別など、閉鎖的で排他的な一面をもっていたこともまた事実です。過去の共同体をしっかりと見つめ直し、良いところはそれを受け継ぎ、負の遺産は整理をするという作業をした上で、新しい地域の共同体づくりを目指さなければなりません。

学校で行われる「集団づくり」によって、人権尊重の精神に立った子どもたちが成長し、大人になって築いていく共同体は、過去の再現ではなく、「他人」同士が豊かにつながり、各々が幸福を追求することができるという社会なのです。

地域を大きな「学級」や「学校」になぞらえてとらえ、互いの人権が尊重された「集団（地域）」をつくることを目指したいものです。その第一歩として、目の前にいる子どもたちに対する集団づくりを進めていかなければなりません。